

平成16年 11月1日 No.137
 〒491-0041 一宮市文京1丁目4-6
 ☎ 0586-73-8707 FAX 0586-73-8870
 メールアドレス magokoro@owari.ne.jp
 ホームページ http://www.owari.ne.jp/~magokoro/

まごころ

=ともに生きる暮らしをめざして=
 特定非営利活動法人
 尾張地域福祉を考える会まごころ
 まごころ 訪問介護事業所

お待ちしております！ まごころふれあい祭り

11月7日(日)10時~15時

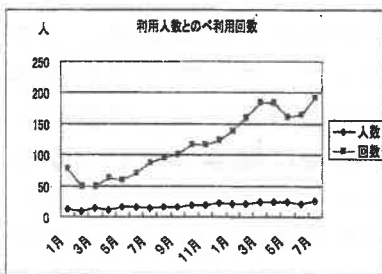


助け合いによる移動サービスの の継続に向けて、いよいよ 安全教育講習が始まります

データでみた まごころ移動サービス

11月14日(日)
10時~15時

図のようにこの1年で移動サービスを利用した人は2倍、のべ利用回数は3倍になっています。表は7月における移動距離、回数、時間を調査したものです。



事務所から平均 3.4km の利用者宅へお迎えに行き、3.7km の目的地まで11分でお乗せするサービスを1日6回やりました。ということになります。タクシー会社にしてみれば、1台分にも満たないサービスですが移動困難な利用者にとっては、なくてはならないサービスです。

総往復距離	1312km
迎え距離	600km
片道移動時間	11分
のべ回数	177回
平均往復距離	7.4km
平均迎え距離	3.4km

ベットから車椅子に乗り換え、段差を乗り越えて協力者の自家用車まで移動し安全に座席に座って頂きシートベルトを締める。これでやっと出発です。そろり

そろりと目的地へ向かいます。帰りも同様に自家用車から車椅子に移りベットまで移動します。

このような移動サービスをもっと安心して安全に出来るようにまごころでは11月14日(日)移動ネットワーク愛知主催の安全運転講習会を開催し、運転手さんに講義・介助・運転実技を勉強していただくことになっております。

このほど、介護の現場で顕著な活動を行っている団体、個人に贈られる毎日新聞主催『毎日介護賞』の「中部本社報道センター室長賞」をいただきました。今回の受賞は、会発足から十二年、わたしたちの活動に共感し、共に歩いて下さったすべての会員の皆様、的確なご指導や温かい声援と励ましを下さった保健、医療、福祉関係者の皆様、また同じ住民参加団体の仲間の皆様のお陰だと心から感謝申し上げます。これからも、初心に戻り、ニーズに沿う活動を重ねてまいりたいと思っております。今後ともよろしく願います。

「二〇〇四年毎日介護賞」 中部本社報道センター室長賞

いただきました

毎日新聞10月15日朝刊より転載

高齢者や知的障害者らが楽しく集う「まごころ」のふれあい活動



毎日介護賞

「まごころ」に報道室長賞

「一宮市拠点」住民参加型で活動

介護の現場で精力的に活動する団体・個人をたたえる「毎日介護賞」の受賞者が14日発表され、「一宮市のNPO(特定非営利活動)法人「尾張地域福祉を考える会(まごころ)」(平田和善代表)が毎日新聞中部本社報道センター室長賞に選ばれた。

【まごころ】は88年7月「高齢者が弱ったり障害や病気で介護が必要になっても住み慣れた場所や安心して暮らしたい」との思いを持つ人が集まり、住民参加型の在宅福祉サービス団体として発足した。活動範囲は「一宮市」と「大府市」の二市に限定し、資金難が事務所の転々とするなど課題の連続だった。ボランティアでない自立した活動にしようと、5年前にNPO法人認定を取った。現在は、▽家事や介護を行う在宅支援▽独居老人や痴呆の人が集

うミニサービス▽通院などの移送サービス▽高齢者や知的障害者のふれあい活動▽などに取り組んでいる。

平田さんは「介護者と被介護者が対等な立場で助け合える活動として、今後も先駆的に取り組んでいきたい。介護保険制度の活用を促し、実践活動を通じて社会で認知していただきたい」と語り切っている。



ガイドヘルパー養成研修修了

重度視覚障害者及び重度脳性まひ等全身性障害者研修課程
 障害者福祉の基本理念
 わくわくする暮らしを支えること

一人でも多くの障害者の方の外出支援が出来るようにとガイドヘルパー養成研修講座を開催しました。思っていたとおりの必要な講座であり、素晴らしい講師陣を迎えての授業と研修は、受講生にガイドヘルパーの重要性を理解していただくには十分な講座でした。

障害者福祉の基本理念は、「わくわくする暮らし」を支えることです。ガイドヘルパーが外出支援を担うことで、障害者の外出の機会を拡大させることが出来ます。安心して、外出が選択出来る



るまでにはまだまだガイドヘルパーが不足しています。もっと、専門性を身につけたヘルパーを養成し、安心して外出出来る支援体制を作らない限り、一人で外出出来ない方には、わくわくする暮らしは生まれてこないのです。

「支援制度」まごころ児童デイ

「問われる専門性と普通のかかわり」
 「経験のない初めてのことにでは対応出来ないのが自閉症の特性です。長い目で見守ってほしい」

これは、デイサービスの中での遊びに、児童がスムーズにかかわりを持ってなかったという局面だけをとらえ、スタッフがそれを記録したことについて、お母様からいただいたご意見でした。

初めてのことにへの対応が苦手なのは障害の有無を問わず子供達には普通にあることです。今回、スタッフが問われなければならぬのは、この遊びが児童にとって初めての経験だったかどうか認識していなかったことは論外として、障害をもつ子供たちの特性を把握し、障害そのものを理解する専門性と同時に、普通に子供とかかわるといふ基本の大事さを合わせて理解し得ていたかどうかです。間違った先入観がなかったかどうか。成長する子供たちの芽を摘むようなことのないよう、スタッフの資質向上に事業所は懸命に取り組まなければと肝に銘じ、反省をしています。

率直なご意見をいただけたことを、大変嬉しく思っています。

十月の児童デイ利用状況

開所日 十六回 利用者 一五三名

※児童デイ内容は別紙をご覧ください。